



傘中だより 校訓「愛知・自治・敢為」 89名のみんなど保護者の皆様へ

平成28年度 第2号

発行日 5月 30日

発行者 校長 三浦恵子

4月14日・16日熊本県での震度7の大地震の発生以来一ヶ月半が経とうとしています。が、今もなお揺れを感じ、死者も40人以上そして避難生活で不自由な生活を強いられている方々もたくさんおられます。被災された多くの方々やご家族の方々に対し心からお見舞い申し上げます。熊本の様子を見てみると、いつ南海トラフ地震が起こっても不思議ではありません。また、私たちは、いつ・どこで自然災害に遭遇するかもしれません。そのことを普段から考え、防災・危機管理をしていかなければなりません。中学校では、5月19日保小中合同避難訓練を実施しました。一次避難で裏山へ、二次避難として中学校3階教室・廊下へと、中学生が率先避難者となるよう訓練を行いました。ご家庭におかれましても、日頃から地震を始めとした自然災害を話題にさせていただき、危機回避の方法をお話してください。よろしくお祈りいたします。

自然の脅威を感じながらも、周囲には心癒される牟岐の自然が広がっています。5月24日・25日1年生は宿泊訓練、3年生は職場体験、24日2年生は防災ウォークラリーと校外学習を実施しました。その成果をこれからの学校生活に、自分自身の生活に、進路選択にと生かしてくれると思います。



5月30日(月)朝会の話

19世紀ドイツの哲学者アルトゥル・ショーペンハウアー（1788～1860）の寓話をします。

**ヤマアラシの群れが寒さに震えていた。
彼らは互いを温め合おうと思い、互いに身を近づける。
けれど、彼らの体には無数の棘がある。
近づけば近づくほど、互いを傷つけてしまうことになる。
それでも離れてしまえば寒くてたまらない。
そのままでは、やがて凍え死んでしまう。
そこで彼らは試行錯誤を繰り返す。
近づいたり離れたり、を繰り返す。
そして彼らは、ついに発見する。
互いを傷つけずに温め合うことのできる距離を――**



ヤマアラシはひとりぼっちでさみしくて生きていけません。一緒に生きていく仲間を求めるのです。何もないときはその仲間と仲良くすることができます。しかし、いったん身に危険を感じてしまうと、反射的に危険から自分を守るために針が全身にあらわれてきます。その針で仲間を傷つけ、反対に仲間の針で自らも傷つく。そんなことを繰り返してしまいます。このことを「ヤマアラシのジレンマ」といいます。それでは、互いに傷つけず温め合うことのできる距離をどのようにして見つければ良いのでしょうか。考えてください。人間に置き換えて考えてみましょう。まず、自分にも目には見えない針があるのだとしっかり自覚していくということからではないでしょうか。相手の針はよく見えますが、それを見て自分の針を見てほしいと思います。これから苦い思いや悔しいこともいくつもでてくると思います。そのとき自分の傷みと同時に相手の気持ちも考えればと思います。両者が納得した上で、みんなが居心地のいい関係づくりをしていけるといいですね。

校内陸上選手権大会を行います

6月6日(月) 2時間目より行います。

雨天順延

全校生徒が自己記録更新・校内記録突破をめざして頑張ります。

応援よろしくお祈りいたします。



中間テストが終わりました

5月19日・20日に1年生にとっては入学して、2・3年生は進級して、初めての定期テストが終わりました。さてどんな結果だったでしょうか？家庭学習星取り表は勝ち越しましたか？間違ったところをもう一度確認して、次につながる家庭学習をしていきましょう。！！